

する。ジョギングの効果は「健康の獲得」が最も多く、次に「精神面の充実」であった。ジョギングにより障害を経験したものは72%にみられ、膝が最も多かった。医療機関は整形外科が最も多く、今後スポーツ障害に対する正しい知識を有する必要があると思われた。

36. 川鉄病院スポーツ整形外科の現況

鍋島和夫, 岡崎壮之, 徳重克彦
(川鉄・スポーツ整形)

川鉄病院スポーツ整形外科の院内標榜が認められて1年間になり、以下の現況につき報告する。

1. スポーツ整形外科のテーマ
2. 昭和57年1月から昭和57年12月までの1年間の入院統計
3. スポーツ医学の勉強会
4. CHIBA SPORTS MEDICINE SOCIETY
5. 専門医, スポーツドクター, トレーナーの協力関係
6. その他スポーツや運動を利用した健康づくりの活動

37. 海外留学研究報告—骨折治癒に関する組織形態計測による研究を中心に—

後 藤 澄 雄 (千大)

脊椎の胎生軟骨発育と骨折治癒に関する組織計測的研究のうち後者につき報告した。AO法の問題点として、皮質骨治療では、Union phaseのGap healing, Remodeling phaseでの骨量低下があり、筆者の研究はGap healing経過、内固定材料の弾性の差など各種力学的条件下での骨量減少経過について、骨3 envelope個別に追求したものである。また海綿骨骨折治癒に関する2研究についても報告した。

38. ハーバード大学留学報告

南 昌 平 (千大)

39. Low back pain に対する Segmental Spinal Instrumentation について (オタワ留学報告)

篠 遠 彰 (千大)

オタワ大学整形外科では、高年齢の multiple degenerative disc disease や spinal canal stenosis などによる low back pain や leg pain に対して、広汎な laminectomy による除圧の後に、spinal stability を得る目的で、Louque rod 挿入, segmental wiring と posterola-

teral fusion を行なっている。本法の利点としては、(1) facetectomy まで加えた完全な除圧が行なえる。(2) mal-alignment の矯正が可能である。(3) 強固な固定力が獲得でき術後早期 rehabilitation が行なえる。

40. 当院における脊椎外傷の治療現況

豊田 敦 (国保成東)
広瀬 彰, 新井貞男, 斉藤雅人 (千大)

41. 興味ある経過を示した頸椎外傷の1例

平松健一, 大井利夫, 木村 純, 大西正康,
高山篤也, 染屋政幸 (上都賀総合)

今回われわれは、来院時中心性頸髄損傷の症状を呈していた C₅₋₆ 頸椎回旋性脱臼骨折で、受傷後4週にして Wallenberg 症候群の出現をみた症例を経験した。血管造影により、椎骨動脈の C₆ 横突孔高位での閉塞を確認し、椎体固定術及び椎骨動脈開放術を施行した。全経過を示すとともに、報告例、受傷機転につき考察し、頸部外傷の治療に際しての中樞神経系の循環動態に対する考慮の必要性を強調した。

42. 興味ある頸椎外傷の3例

森石丈二, 坂巻 皓, 黒田重史, 松岡 明,
高田啓一 (鹿島労災)

症例1. 第6頸椎上関節突起骨折裂。症例2. 環椎破裂骨折と第7頸椎椎体骨折の合併例。症例3. 弾丸による第3頸椎椎弓骨折例。まとめ 1. 頸椎上関節突起骨折では CT reconstruction が診断及び治療判定に有用であった。2. 上位頸椎損傷では、下位頸椎損傷を合併する事がある。3. 弾丸により Brown-Séquard type と Central cord type の混合した頸髄損傷を生じ、観血的治療により、早期の回復が得られた。

43. 骨傷の明らかでない頸髄損傷—123症例の検討—

佐藤 優, 高木学治, 高橋淳一, 小林紘一,
小野 豊, 林 謙二, 熊谷好正 (千葉労災)

過去17年間に当科に入院した骨傷の明らかでない頸髄損傷123例を検討し、次のような結果を得た。(1) 平均年齢は50.8歳と高く、受傷機転は転倒などの軽微なものが多かった。(2) X線上加齢的变化・OPLL・椎間板狭小化・椎体椎弓管前後径比の低下を示す例が多かった。(3) 麻痺の程度の軽いものでは高齢者でも予後はよく保存療法で十分であるが、麻痺の程度の重いものでとくに若年者の場合は早期よりの観血療法が有効と考えられた。